

教育研究上の目的: 応用生命科学研究科は、食品、農業、環境、創薬、医療及び保健衛生等の生命に関わる分野並びに理科教育の各分野における高度な研究能力を有し、信頼されるプロフェッショナルとして社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。				1. プロフェッショナリズム					2. コミュニケーション力		3. 応用生命科学関連領域の高度な専門知識・技能	4. 問題発見・解決力	5. 社会貢献力
区分	授業科目	単位	修了要件	・信頼されるプロフェッショナルとして社会に貢献する使命感をもち、法令を遵守し、応用生命科学に携わる研究者を目指す者としての倫理観をもって行動できる。	・前例のない課題に対しても積極的に取り組み、解決に向けた方策を考案することができる。	・常に自己を評価・省察し、自己研鑽を図ることができる。	・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成することができる。	・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができる良好な人間関係を構築できる。	・外国語文献から情報を収集し、さらに研究内容について討議し、研究成果を発信できる。	・食品科学、バイオテクノロジー、生命化学及び環境化学に関する高度な専門知識・技能を修得する。	・食品科学、バイオテクノロジー、生命化学及び環境化学関連領域における諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに研究計画を立て、柔軟な思考と深い洞察に基づいて研究を遂行できる。	・社会が抱える諸問題を客観的・数量的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づく解決策の提案を通して、信頼されるプロフェッショナルとして社会の発展に貢献できる。	
共通必修科目	研究リテラシー I	1	必修	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	
応用生命科学コース 選択必修科目	動物細胞工学特論	1	3単位以上 選択必修	5単位以上 選択必修 (他コース特論から選択可)	◎	○	△	△	△	◎	◎	○	
	分子生物学特論	1			△	○			△		◎	△	△
	ケミカルバイオロジー特論	1			△	○	△				◎	△	△
	植物分子細胞学特論	1			◎	◎	○	△	○	◎	◎	◎	◎
	環境工学特論	1			◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	◎
	有機合成化学特論	1			△					△	◎	○	△
	応用微生物学特論	1			△	○			△	◎	◎	△	△
	食品分析学特論	1			○	○	○	○	○	○	○	○	○
	栄養生化学特論	1			◎	○	○	△	○	◎	◎	○	△
	環境発酵微生物学特論	1				△			△	△	◎	○	△
	食品安全学特論	1			△	○	△	△	△	△	○	◎	○
	酵素学特論	1				△		△	△	◎	○	△	△
分子科学特論	1	△	◎	△			○	◎	○	△			
薬科学コース 選択必修科目	有機薬化学特論	1	-			△	△		○	◎	○	△	
	薬品製造学特論	1								○	◎	○	○
	生薬・天然物化学特論	1			△	△	△	△	△	△	○	○	△
	生化学特論	1			△	◎	◎	○	△	◎	○	○	△
	衛生化学特論	1							△	△	○	△	△
	微生物学特論	1			○	○	△	△	○	○	◎	○	◎
	薬品物理化学特論	1			△	◎	○	○	△	◎	△	◎	○
	薬品分析化学特論	1			○	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	○
	薬理学特論	1			○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	○
	薬剤学特論	1			○	△	◎	◎	○	◎	○	◎	○
	臨床薬剤学特論	1			◎	○	○	△	○	◎	◎	◎	○
	臨床薬理学特論	1			◎						△	○	
	臨床医学特論 I	1			◎	○	○	△	△	○	◎	○	○
	臨床医学特論 II	1			◎	○	○	△	△	○	◎	○	○
	臨床化学特論	1			○	◎	◎	◎	○	◎	○	○	○
	薬物動態学特論	1			○	△	◎	◎	○	◎	◎	○	◎
臨床薬学特論	1	◎	△	○	◎	◎	◎	△	△	◎			
応用生命科学コース	応用生命科学演習	9	必修		△	○	△	△		◎	○	◎	
	応用生命科学実験	15			◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
			30単位以上										

教育研究上の目的: 応用生命科学研究科は、食品、農業、環境、創薬、医療及び保健衛生等の生命に関わる分野並びに理科教育の各分野における高度な研究能力を有し、信頼されるプロフェッショナルとして社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。														
学位授与の方針: 食品、農業、環境、創薬、医療及び保健衛生に関する科学、並びに生命科学を中心とした理科中等教育において、信頼されるプロフェッショナルとして社会に貢献できる人材を育成する本研究科の課程を修め、修了要件として定めた単位を修得し、以下の資質・能力を備え、かつ、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に「修士(応用生命科学)」の学位を授与する。														
◎:ディプロマポリシー達成へ向け、特に重要な事項、 ○:ディプロマポリシー達成へ向け、重要な事項、 △:ディプロマポリシー達成へ向け、望ましい事項				1. プロフェッショナリズム		2. コミュニケーション力		3. 薬科学関連領域の高度な専門知識・技能	4. 問題発見・解決力	5. 社会貢献力				
区分	授業科目	単位	修了要件	・信頼されるプロフェッショナルとして社会に貢献する使命感をもち、法令を遵守し、薬科学に携わる研究者を目指す者としての倫理観をもって行動できる。	・前例のない課題に対しても積極的に取り組み、解決に向けた方策を考えることができる。	・常に自己を評価・省察し、自己研鑽を図ることができる。	・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成することができる。	・他者を尊重し、協調・協力的に課題を解決することができる良好な人間関係を構築できる。	・外国語文献から情報を収集し、さらに研究内容について討議し、研究成果を発信できる。	・創薬科学、環境科学、医療及び保健衛生に関する高度な専門知識・技能を修得する。	・創薬科学、環境科学、医療及び保健衛生関連領域における諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに研究計画を立て、柔軟な思考と深い洞察に基づいて研究を遂行できる。	・社会が抱える諸問題を客観的・数量的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づく解決策の提案を通して、信頼されるプロフェッショナルとして社会の発展に貢献できる。		
共通必修科目	研究リテラシー I	1	必修											
薬科学コース 選択必修科目	有機薬化学特論	1	3 単位以上 選択必修	5 単位以上 選択必修(他 コース 特論から 選択可)	△	△		○	◎	◎	○	△		
	薬品製造学特論	1							○	◎	◎	○	○	△
	生薬・天然物化学特論	1			△	△	△	△	○	○	○	○	○	△
	生化学特論	1			△	◎	◎	○	△	◎	◎	○	○	△
	衛生化学特論	1						△	△	○	○	○	△	△
	微生物学特論	1			◎	○	△	△	○	○	◎	◎	◎	◎
	薬品物理化学特論	1			△	◎	○	○	△	◎	◎	△	◎	○
	薬品分析化学特論	1			◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○
	薬理学特論	1			○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○
	薬剤学特論	1			○	△	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	○
	臨床薬剤学特論	1			◎	○	○	△	○	◎	◎	◎	◎	○
	臨床薬理学特論	1			◎						◎	◎	○	○
	臨床医学特論 I	1			◎	○	△	○	○	○	◎	◎	◎	○
	臨床医学特論 II	1			◎	○	△	○	○	○	◎	◎	◎	○
	臨床化学特論	1			◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	○	○
薬物動態学特論	1	○	△	◎	◎	○	◎	◎	○	◎	○			
臨床薬学特論	1	◎	△	◎	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎			
応用生命科学 コース 選択必修科目	動物細胞工学特論	1	-		◎	○	△	△	◎	○	○	○		
	分子生物学特論	1			△	○		△		◎	△	△	△	
	ケミカルバイオロジー特論	1			△	○	△				◎	△	△	
	植物分子細胞学特論	1			◎	◎	○	△	○	◎	○	○	○	
	環境工学特論	1			◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	◎	
	有機合成化学特論	1			△					△	◎	○	△	
	応用微生物学特論	1			△	○		△		◎	◎	△	△	
	食品分析学特論	1			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	栄養生化学特論	1			◎	○	○	△	○	◎	◎	○	△	
	環境発酵微生物学特論	1						△	△		◎	◎	○	△
	食品安全学特論	1			△	○	△	△	△	○	◎	◎	○	○
	酵素学特論	1				△	△	△		◎	◎	△	△	
分子科学特論	1	△	◎	△			◎	◎	○	△				
薬科学 コース	薬科学演習	9	必修			○				○	○	△		
	薬科学実験	15			○	○	○	○	○	○	○	○		
			30単位 以上											

新潟薬科大学大学院応用生命科学研究科(博士前期課程)カリキュラムマップ

【理科教職専修コース】

教育研究上の目的: 応用生命科学研究科は、食品、農業、環境、創薬、医療及び保健衛生等の生命に関わる分野並びに理科教育の各分野における高度な研究能力を有し、信頼されるプロフェッショナルとして社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。  学位授与の方針: 食品、農業、環境、創薬、医療及び保健衛生に関わる科学、並びに生命科学を中心とした理科中等教育において、信頼されるプロフェッショナルとして社会に貢献できる人材を育成する本研究科の課程を修め、修了要件として定めた単位を修得し、以下の資質・能力を備え、かつ、修士学位論文の審査及び最終試験に合格した者に「修士(応用生命科学)」の学位を授与する。												
			1. プロフェッショナリズム				2. コミュニケーション力		3. 理科教育学関連領域の高度な専門知識・技能	4. 問題発見・解決力	5. 教育実践力	
授業科目	単位	修了要件	・信頼されるプロフェッショナルとして社会に貢献する使命感をもち、法令を遵守し、高度専門職業人たる教員としての倫理観をもって行動できる。	・前例のない課題に対しても積極的に取り組み、解決に向けた方策を考えることができる。	・常に自己を評価・省察し、自己研鑽を図ることができる。	・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う人材を育成することができる。	・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができる良好な人間関係を構築できる。	・学校現場をはじめとする教育関係者と協働し、さらに研究内容について討議し、研究成果を発信できる。	・理科の各分野と理科教育を中心とした教育学に関する高度な専門知識・技能を修得する。	・理科教育学関連領域における諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに研究計画を立て、柔軟な思考と深い洞察に基づいて研究を遂行できる。	・学校や生徒の実態を把握し、主体的に学校教育活動に参画することができる。 ・教育改革の潮流を捉え、新しい学校教育を企画し実践することができる。	
研究リテラシー I	1	必修	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	
動物細胞工学特論	1	7単位以上選択必修	○	○	△	△	△	◎	○	○	○	
分子生物学特論	1		△	○			△		◎	△	△	
ケミカルバイオロジー特論	1		△	△	○				◎		○	
植物分子細胞学特論	1		◎	◎	○	△	○	◎	◎	◎	◎	
環境工学特論	1		◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	◎	
有機合成化学特論	1		△				△		◎			
応用微生物学特論	1		△	○			△		◎	△	△	
環境発酵微生物学特論	1		△				△		◎	○	△	
酵素学特論	1			△	△	△		◎	○	△		
分子科学特論	1		△	◎	△			◎	◎	○		
生物学特論	1		○		○	◎	◎		○	△	○	
教育社会学特論	1	必修	○	○	△		△	○	◎	◎	○	
理科教育法特論	5		○	○	△		△	○	◎	◎	○	
教育臨床実習事前事後講義	2		◎	◎	○		◎		◎	○	◎	
教育臨床実習	4		◎	◎	○		◎		◎	○	◎	
理科教職実験	5		○	○	○	△	△	△	◎	◎	○	
理科教職演習A	5		5単位1科目選択必修	○	○	○	○	◎	△	◎	○	◎
理科教職演習B	5			○	○	○	○	◎	△	○	○	◎
			30単位以上									

新潟薬科大学大学院応用生命科学研究科(博士後期課程)カリキュラムマップ

教育研究上の目的: 応用生命科学研究科は、食品、農業、環境、創薬、医療及び保健衛生等の生命に関わる分野並びに理科教育の各分野における高度な研究能力を有し、信頼されるプロフェッショナルとして社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。													
学位授与の方針: 食品、農業、環境及び健康に関わる科学及びその関連領域において信頼されるプロフェッショナルとして社会に貢献できる人材を育成する本研究科の課程を修め、修了要件として定めた単位を修得し、以下の資質・能力を備え、かつ、博士學位論文の審査及び最終試験に合格した者に「博士(応用生命科学)」の学位を授与する。													
◎:ディプロマポリシー達成へ向け、特に重要な事項、 ○:ディプロマポリシー達成へ向け、重要な事項、 △:ディプロマポリシー達成へ向け、望ましい事項			1. プロフェッショナリズム					2. コミュニケーション力			3. 応用生命科学関連領域の先進的専門知識・技能	4. 問題発見・解決力	5. 社会貢献力
授業科目	単位	修了要件	・信頼されるプロフェッショナルとして社会に貢献する使命感をもち、法令を遵守し、応用生命科学に携わる研究者としての倫理観をもって行動できる。	・前例のない課題に対しても積極的に取り組み、解決に向けた方策を考え実行することができる。	・常に自己を評価・省察し、自己研鑽を図ることができる。	・後進指導の重要性を理解し、次世代を担う研究者を育成することができる。	・他者を尊重し、協調・協働的に課題を解決することができる良好な人間関係を構築できる。	・外国語文献から情報を収集し、さらに研究内容について討議し、研究成果を発信できる。	・食品科学、バイオテクノロジー、生命化学及び環境化学に関する極めて高度で先進的な専門知識・技能を修得する。	・食品科学、バイオテクノロジー、生命化学及び環境化学関連領域における諸問題を発見し、それらの解決に必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに研究計画を立て、柔軟な思考と深い洞察に基づいて研究を遂行し、諸問題を解決することができる。	・社会が抱える諸問題を客観的・数量的に分析し、その本質を捉え、科学的・論理的な思考に基づく解決策の提案及び研究成果を通して、信頼されるプロフェッショナルとして社会の発展に貢献できる。		
研究リテラシーⅡ	1	必修	◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎		
動物細胞工学特殊講義	1	5 単位 以上 選択 必修	◎	○	△	△	○	◎	◎	○	○		
ケミカルバイオロジー特殊講義	1		△	○	△			◎	◎	○			
植物分子細胞学特殊講義	1		◎	◎	○	△	○	◎	◎	◎	◎		
環境工学特殊講義	1		◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎		
グリーンケミストリー特殊講義	1		△						◎	○	△		
応用微生物学特殊講義	1		△	○			○	○	◎	△	△		
食品分析学特殊講義	1		○	○	○	○	○	○	◎	○	○		
栄養生化学特殊講義	1		◎	○	○	○	○	◎	◎	○	△		
グリーンプロセス・食品工学特殊講義	1			△			△		◎	○	△		
食品安全学特殊講義	1		○	△	○	△	△	○	◎	◎	◎		
食品酵素学特殊講義	1		△	◎	○		△	○	◎	○	△		
分子科学特殊講義	1	△	◎	△			◎	◎	○				
応用生命科学特殊演習	5	必修	△	○	△	△			◎	○	◎		
応用生命科学特殊実験	24		◎	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎		
		35単位以上											